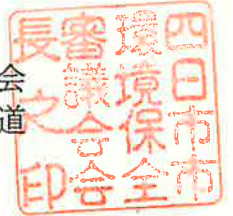


令和7年11月28日

四日市市長
森 智広 様

四日市市環境保全審議会
会長 福井 弘道



令和6年度 四日市市環境計画の進捗に関する評価結果

1. 評価にあたって

第4期四日市市環境計画第6章「計画の推進にあたって」において、計画の実効性を確保し、着実な推進を図るため、環境目標に基づく具体的な施策の実施状況や、市民・事業者の取組等を踏まえ、設定した指標を用いて客観的に進捗状況を点検・評価するとされている。また、環境計画全体の進捗状況については、市による内部評価、四日市市環境保全審議会による外部評価を行うとされている。

そこで、当審議会では、「四日市市環境計画年次報告書（令和5年度事業）」について、重点施策の実施状況や、取り組み指標の進捗状況に関する資料等を基に、環境計画全体の進捗について検討し、評価を行った。

2. 評価結果

令和3年度から計画期間が始まった第4期環境計画に基づき、今後も実効性のある施策を実施していただきたい。

令和5年度における環境計画の進捗については、概ね計画どおりに取り組みが実施されているものと評価するが、数値目標の達成度が低い項目についてはその原因を分析・検討した上で、達成可能な取り組み、改善策を期待する。

令和5年7月に四日市市地球温暖化対策実行計画を中心とした環境計画の改定を行い、温室効果ガス排出量の削減目標の上方修正を行ったことで、より一層地球温暖化対策の動きの加速化が求められる。令和7年度には本計画の中間見直しと併せて「四日市市気候変動適応計画」の策定が予定されていることから、気候変動の「緩和策」、「適応策」の効果的な施策の実施を期待する。

また、地球温暖化対策の一環として、市民・事業者への環境に関する意識を向上させ、環境問題を「自分ごと」として捉えてもらうための環境教育・環境学習が重要である。令和5年7月には、脱炭素につながる新しい豊かな暮らしを創る国民運動「デコ活」が本格的に始動したことから、市民・事業者の行動変容を促すべく、様々な場面において啓発を行い、関係機関と連携した施策に取り組んでいただきたい。

地球温暖化対策を講じるだけでなく、生物多様性の損失を止めることが重要であることから、自然環境、地域環境の保全の実施により四日市の豊かな自然を守り、ネイチャーポジティブの実現に取り組むべく、各種施策の拡充を期待する。

そして、5つの環境目標の達成に係る環境施策を推進していくために、各主体が協働し、連携しながら部局横断的に施策を更に充実させることを期待する。